

宮城県蔵王高等学校におけるオンラインによる国際交流の事例

p4cによる取組み【 海外の大学、他機関との連携による取組み 】

平成27年から、ハワイ発祥のp4c(Philosophy for children)(子どものための哲学対話)の活動やハワイ大学、現地の先生方との交流を続けてきた。コロナウイルスの影響で令和2年度から交流会を実施できていないため、令和3年度はオンラインによる日米の生徒同士の交流会を総合的な探求の活動(蔵王タイム)に行った。本校生徒は3学年22名、カイルア高校からは10名程度の生徒が参加した。p4cとは、「子どものための哲学対話」を意味し、通常は学級の中で円座になりコミュニティボールを回しながら、生徒が決めたテーマ(問い)(なぜ～なのか、○○と△△どちらが良いか)などについて対話し、考えを深める活動である。

【プログラムの内容】

- ・(2021年5月21日)日米の生徒の自己紹介、質問などによるアイスブレイク
- ・(2021年6月25日)互いの学校や国、文化などについてのクイズ

【工夫した点】

- ・自己紹介やクイズを英語でスムーズに行うことができるよう事前準備を行った。交流内容の確認や英語の練習などを行い、当日に備えた。生徒達に達成感や、コロナ禍でも外国と繋がり国際交流ができる喜びを感じさせることができた。
- ・通常の教室はネット接続可能なiPadの台数が13台程度であったため、接続等について宮城教育大学上廣アカデミー、大河原視聴覚センターの協力を仰いだ。
- ・日本とハワイの時差が7時間あるため、本校は(1校時)(8:50～)、現地は放課後(13:50～)の時間帯に設定した。

【今後の課題】

- ・カイルア高校は放課後の時間帯で、有志の生徒による参加のため、生徒の集約や計画が困難であった。
- ・zoomでは生徒が相互理解を深められるよう、生徒の発話が多くなるよう配慮したが、年2回の交流では自己紹介、クイズ等で終わってしまってしまった。継続的に交流が可能であれば、ファシリテータは両国の代表生徒に務めさせ、生徒同士の交流を増やしたい。

【経緯】

平成27年～令和元年	p4cを実践しているハワイの小、中、高の先生、ハワイ大学の教授を招き、交流会(6月)及びp4c活動(年10回程度)を実践。
令和2年	交流会、及びp4c活動についてコロナウイルスの影響のため、実施せず。
令和3年	交流会は実施せず、日米オンライン交流会(3学年、年2回)、校内においてp4cの実施(1～3学年、年1～2回)。

